AIを使った文章の直し方（たたき台・推敲・記録）

AIに直させた文章を、どのように自分の文章にしていけばよいのだろう

1. **自分で書く** 下書き
2. **AIに直させる** たたき台
3. **自分で推敲する** 何度も
4. **過程を記録して出す** 校閲の記録

例（架空）：作文「夏休みの思い出」の1文

1 下書き　夏休みに祖父の家に行って、とても楽しかったです。

2 AIの案　夏休みに祖父の家を訪れ、川遊びや畑仕事を通して、多くのことを学びました。

3 推敲　夏休みに祖父の家を訪れ、~~川遊びや畑仕事を通して、多くのことを学びました。~~

祖父と朝早くから畑で野菜をとったのが、いちばんの思い出です。

消した（取り消し線）：「川遊び」は、していない。事実でないことは使わない
足した（下線）：「楽しかった」の中身を、自分の体験とことばで書いた

記録に残すこと（例）

- 使ったAIの名前と、使った日
- 入力した指示と、AIの出力
- 自分が直したところと、その理由

（ワープロソフトの校閲の機能などで残す）

なぜ記録するの？

- 自分の考えとことばで書く力をつける
- 先生が、考えた過程を見られる
- どこにAIを使ったかを、正直に示す

※ 模式図。作文の文は架空。AIの使い方は、学校や先生の決まりにしたがう。